創立70年の風格
ジュリアード弦楽四重奏団
Juilliard String Quartet

上質なるアンサンブル

『ジュリアード弦楽四重奏団は名声の階段を昇り続ける』
（ボストン・グローブ紙/2014年）

『すべての旋律が上質のマホガニーのような輝き』
（ボストン・クラシカル・レビュー/2014年）

Program

シューベルト：弦楽四重奏曲 第12番「四重奏断章」
Schubert：String Quartet No.12 in c minor "Quartettsatz" D703

モーツァルト：弦楽四重奏曲 第19番「不協和音」
Mozart：String Quartet No.19 in C major "Dissonance" K.465

ドビュッシー：弦楽四重奏曲
Debussy：String Quartet in g minor op.10

ジョセフ・リン/ヴァイオリン
Joseph Lin, Violin

ロナルド・コープス/ヴァイオリン
Ronald Copes, Violin

ロジャー・タッピング/ヴィオラ
Roger Tapping, Viola

ジョエル・クロスニック/チェロ
Joel Krosnick, Cello

© Simon Powis

兵庫県立
芸術文化センター

2016. 6/12（日）
2:00PM開演（1:30PM開場）
A ¥5,000　B ¥4,000（税込／全席指定）

兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール
〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22　阪急西宮北口駅南改札口スグ／JR西宮駅より徒歩15分（阪急バス7分）

一般販売
1/24（日）

芸術文化センターチケットオフィス
☎0798-68-0255
（10:00AM～5:00PM 月曜休み ※祝日の場合翌日）

インターネット予約 http://www.gcenter-hyogo.jp
※窓口での販売（残席がある場合）は1/26（火）より

芸術文化センター会員先行予約受付開始 1/22（金）

※未就学児童のご入場はご遠慮ください。
※やむを得ない事情により、出演者・曲目等が変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。
主催：兵庫県、兵庫県立芸術文化センター

関西から
文化力
POWER OF CULTURE

ジュリアード弦楽四重奏団
Juilliard String Quartet

アメリカの至宝と評され、世界中の音楽ファンを魅了し続け、創立70周年を迎えるジュリアード弦楽四重奏団。古典から現代まであらゆるレパートリーを駆使し、その中で確固たる”ジュリアード・スタイル”を築き上げてきました。

伝説の第1ヴァイオリン、創立メンバーのロバート・マンから4代目、2011年より名誉あるそのポジションを務めるジョセフ・リン。2006年に芸術文化センターでのソロ・リサイタルの魂が引き込まれるような名演が印象に残っています。

今回は、シューベルトの未完の大作「四重奏断章」、モーツァルトの普及の名作「不協和音」そしてグラミー賞を受賞したドビュッシーと、珠玉のレパートリーが揃いました。結成70年を経て熟成された上質のアンサンブルをお楽しみください。

message

私がジュリアード弦楽四重奏団に加わって42年になります。日本での数々の公演は私たちにとって、常に大きな喜びを与えてくれる宝物です。
北は北海道から南は沖縄まで…さまざまな場所で、私たちの音楽に熱心に耳を傾け、受け止めてくださる日本のお客様たちとの出会いを通して忘れがたい経験を重ねています。日本の皆様の音楽に対する愛情に感謝を捧げます。
今回の日本公演が私がメンバーとして演奏する最後の機会となりますが、これまでも、これからも私たちと共にある皆様へ、最大の敬意をこめて。

ジョエル・クロスニック
（ジュリアード弦楽四重奏団チェロ奏者）

profile

1946年創立以来、ジュリアード弦楽四重奏団は、「新しい作品をあたかも定評ある偉大な作品であるかのように演奏し、偉大な作品をあたかも新しい作品であるかのように演奏する」というモットーを具現化してきた。明確なサウンド、作品の構造の明晰な表現、音の美しさ、旋律の純粋さ、そして共通の目的に向かう姿勢は、ベートーヴェン、シューベルト、バルトーク、カーター、ダヴィドフスキー、バビット、ワーニックに至るまで全ての時代の作品に一貫して表現されている。

長い歴史の中で、ジュリアード弦楽四重奏団は500曲以上の作品を演奏し、その中には、ジャズ作品を含む60名ほどのアメリカ人作曲家の初演が含まれる。ジュリアード弦楽四重奏団はバルトークの弦楽四重奏曲全6曲をアメリカで初めて演奏し、またシェーンベルクの弦楽四重奏曲の斬新な演奏で、シェーンベルクの再評価を現代に知らしめるという偉業を成し遂げた。2013年にはジェシー・ジョーンズの弦楽四重奏曲第3番『Whereof man cannot speak…』の世界初演を行った。また2015/2016の創立70周年のシーズンにはリチャード・ワーニックの作品の初演を予定している。

各メンバーは、後進の指導にも熱心で、ツアー中はマスタークラスや公開リハーサルを積極的に行っている。レジデンスであるジュリアード音楽院では、各メンバーが弦楽および室内楽の教授陣として活躍。毎年5月に5日間にわたって開催する「ジュリアード弦楽四重奏団セミナー」は世界中でよく知られている。様々な卒業生のクァルテット・イン・レジデンス（ブレンターノ、アメリカン、キアラ、エマーソン、上海、セント・ローレンス、東京）などと連携し、様々なアンサンブルの規範となっている。

100枚以上の録音をリリースしており、現代で最も広範囲の録音を残している弦楽四重奏団と言える。バルトーク全集、シェーンベルク全集、ドビュッシーとラヴェルのクァルテット集はグラミー賞を受賞している。バルトークとシェーンベルクの作品集で、National Academy for Recording Artsの Hall of Fameに任命され、1993年にはレコード業界での貢献を讃えられ、ドイツ・レコード批評家賞を受賞した。2011年には、Recording Academyよりグラミー賞の功労賞（Lifetime Achievement Award）を授与された。2014年には、以前に録音したエリオット・カーターの弦楽四重奏曲第1番から第4番に加え、新たに録音した第5番を合わせて収録したアルバムがソニー・クラシカルから発売された。これは、カーターの弦楽四重奏作品の全曲集という画期的なアルバムとなった。

演奏活動、レコーディングはもとより、現在活躍している名だたるクァルテットの育成という面でも、ジュリアード弦楽四重奏団は常に米国音楽界の先頭に立ち続け、ジュリアード音楽院を牽引して世界に名声を轟かせている。